

「直使 神との出会い」

神 示

「教え」に気付きを得て

「真理」に悟りを深める人は皆

神の手中 「心」守られる

不思議な体験が重なり 神の实在を体感してゆく

「教え」に心導かれ 不安に迷うことがない

「真理」で社会の姿を見るゆえに

悩む思いが消えてゆく

信者に申す

「心」不安に迷う時

「人生」に 悩み 苦しむ時

直使の笑顔を思い浮かべてごらん

心にゆとりが生まれ 「教え」が心の迷いをほぐす

なぜ人は 「心」悩み 苦しみ 不安に迷うのか

分かるかや

欲心に思いがとらわれ

「実体」を自ら下げている

「運命」の力は抑え込まれ 枯らして

「人生」終わる人も多い

「教え」を学び 「人生」に気付きを得て

「希望の光」を歩んでほしいと 神は願う

心正しく「信者の道」を歩むなら

直使の愛が 信者の人生に寄り添う

不思議な体験が日々起こり

信者の人生は

「真実の光」へとつながってゆく

神は、今必要なことを、神示を通してお教えくださいます。そこから気付きを得て、祈願とともに実践に努めれば、神の手中、人生は必ず守られます。

どのように守られるかと言えば、不思議な体験が重なり、神の实在を体感すると、神は表されました。まさに、体で感じます。心が変わって、毎日が明るくなります。例えば、一口の水さえおいしく感じるほど、豊かな心で生きられます。

神の教えが身に付くと、物事を的確に判断して、「これは責任を持ってやり抜こう」「これは自分が関わる事柄ではない」と取捨選択できます。心の動きが正しく導かれて、迷いに陥ることもないでしょう。そして、結果が吉に戻ります。

日々起きてくる社会の動きも、真理、道理に沿って見極めることができ、情報に流されたりもしないでしょう。そこに、悩みを生むことはないはず。このような生き方こそ、神と正しく出会った人の姿と言えます。

そのような自分になるためにも、神魂と心を重ねて生きる姿勢が大切です。心が不安な時、悩み、苦しみがある時に、直使の笑顔を思い浮かべて祈願するように、神は強く促されています。すると、心にゆとりが生まれ、教えから正しい心の向け方が分かってきます。

人の心は弱く、何かあるとすぐに、悩み、苦しみ、不安に迷います。損得を考えたり、欲に流され、分、器を越えたりしやすいものです。それでは、実体を下げ、せっかく与えられた社会に役立つ運命の力は生かしきれません。

だからこそ、神魂と出会った一人一人には、神の教えを学び、気付きを得て、希望の光を歩み続けてほしいと、神は願われているのです。心正しく信者の道を歩めば、直使の愛、神魂のお力が人生に寄り添い、導いてくださいます。

そこには、不思議な体験が日々起こります。心が変化し、感謝が深くなり、奉仕の心も芽生えて、愛の心で生きていきます。そして、心の道が永遠に続く、真実の光へとつながっていくのです。

「直使 神との出会い」

神 示

神の降臨 その意味は

「希望の光」を世に開き

根付かせるためであった

神魂の運命が 神を求める人の心に重なる今こそ

信者は 自ら「悟り」を深めて

「真理」に生きる時

「教え」で心重なる家庭に 人の運命は磨かれ

「道」ゆく人と成る

信者に申す

直使の運命・「神魂」が 時代の力を操り

信者 世の人の人生を 導き 守っている

神徽魂清の力が宿る神の館に 家族で出入りを重ね

家族一人一人が「実体」を高める努力をする

自然と 家族の心は 重なり 支え合って

「希望の光」が通る家庭と成る

—— 仕合せの基は 和のある家庭 ——

この真実「真理」に生きられる

人生の真実が見えない今の世に

「希望の光」こそ 人類を救う手だて

神が 使者供丸光を通して

社会に示す「教え」は

全てが「真理」

その「真理」に気付きを得て 悟りを深めた信者は皆

神の手の中 「心」導かれ

「真実の光」に救われてゆく

神の降臨は、その御魂が封じ込められた供丸姫先生の誕生、昭和二十一年十一月十五日です。そこから希望の光を世に開き、根付かせる歴史が始まりました。

今や、神魂の運命が、神を正しく求める人の心を導き、希望の光が通る時代を迎えています。神を正しく求めるとは、教えを学んで気付きを得て、実践できるように祈願しながら生きることです。

そうした生き方を目指して励むのは、一人ではなく、家族そろって努力しなくてはなりません。家族で教えに触れ、心の重なる家庭においてこそ、運命は磨かれ、持って生まれた力が引き出されていきます。各自が正道を歩めるのです。

直使の運命、神魂のお力が、救いを求める人の心を導き、守ってくださる有り難い時代です。社会全体を正しい方向へ軌道修正できるように、神が時代の運命の力を操り、導かれている今なのです。

直使が神から受けられた数々の神のお力が、今、神徽魂清というお力に結集されて、神示教会の根底を支えています。

ですから、神徽魂清のお力が宿る神の館に、家族で事有るごとに入り出して、教えを学び、祈願を重ねて、一人一人が実体を高める努力をするのです。

それができれば、自然と家族の心が重なり、希望の光が通る家庭となります。仕合せの基となる和のある家庭が出来上がります。神は、家庭の和の大切さを繰り返して説かれています。再三ご指導くださるのは、それだけ重要であり、できていない現実があるからです。

人生の仕組み、成り立ちを知らない世の中に、神は直使、代神を通して希望の光を開かれました。そして、希望の光を確実に歩めるように、今も使者を通して、数々の神示をもって心の在り方をご指導くださっています。

運命実体から逃れられないこの世で、希望の光こそ人類を救う唯一の手だてです。その価値を知り、日々正しく生き抜いてこそ、ご守護の中で一人一人の人生は導かれ、心の道が末広がりに救われる真実の光につながっていくのです。